

2. 介護問題について

(2) 傾聴ボランティア活動について

さて、皆さまはドイツのミヒャエル・エンデという児童文学作家をご存じでしょうか。彼の代表作に「モモ」という作品があります。この作品は各国で翻訳されており、日本でも大変に人気があり、本の発行部数は本国のドイツに次ぐと言われています。この作品の主人公である少女モモは、



ただ人の話を聴くだけで、話をする人に対し元気を与えていく不思議な力を持ち、「時間どろぼう」と呼ばれる「人の心まで管理しようとする管理社会」の悪と戦うのですが、そのためにモモが取った行動が「傾聴」であります。この「傾聴」についてお聞きしたいと思います。

傾聴とは、相手の話したいことに対して深く丁寧に耳を傾け、相手に肯定的な関心を寄せ内容の真意をはっきりとさせながら、共感的理解を示すコミュニケーションの技法です。ただ話を聞いたり自分の関心のあることだけを質問するのではなく、相手が話したいことや伝えたいことを真摯に受け止め、共感的な態度で理解に務める関わり方であります。

平成21年9月定例会の一般質問で我が会派の高橋雅成議員が、傾聴について、長野県における傾聴ボランティア活動を通して紹介し、「話すという行為に含まれる欲求には、①個人として認められたい、②感情を表に出したい、③共感してほしい、④受けとめてもらいたい、⑤批判、判断、審判されたくない、⑥自分で選択、決定したい、⑦自分の秘密を守ってほしい、ということがある（中略）。しかし、ひとり暮らしや施設入所者の多くは、話したくても話す機会が少ないというのが実態」であることを示し、本県における傾聴活動の普及を訴えました。

当時の麻生知事から「傾聴ボランティアというのは、なかなかこれもいい名前である。老人クラブ、市町村でひとり暮らしの高齢者などの皆さんの見守り協議会（中略）、このような協議会活動の一つといたしまして、この傾聴ボランティアというような活動を取り入れるということについて、協議をしてまいりたい」との答弁を頂いております。

現在、この傾聴ボランティアの活動は、本県においても、各地域に浸透しているようで、私の地元の北九州市においても、北九州市社会福祉協議会が主体となって傾聴ボランティアの養成講座を開いたり、活動者同士の交流を図ったりすることで、さらに充実したボランティア活動ができるようフォローアップを行っています。ところが、昨年からのコロナ禍にあって、この傾聴ボランティアの活動が困難な状況にあるとも伺っています。しかし、コロナ禍であるからこそ、話したくても話す相手がそばにいないといった孤立した状況にあたり孤独感にさいなまれたりする高齢の方が多く存在し、そうした孤立化や孤独に陥ることを防ぐためにも、傾聴ボランティアの活動は益々重要度を増していると思います。そこで、知事職務代理者に以下、質問します。

まず、傾聴ボランティア活動について、どのような意義があるとお考えか伺います。

次に、本県における傾聴ボランティアの現在の活動状況について、把握できる範囲でお答え願います。

さて、長野県では、平成25年に「長野県傾聴ボランティア連絡協議会」を発足させ、県内各地で活動する傾聴ボランティアグループのネットワーク化を図り、傾聴技術を向上させ、ボランティア意欲の高まりを促すとともに、社会福祉向上に努めています。現在、コロナ禍の中にあっても継続して会報を発行し、県内ボランティアグループへのアンケート調査を通し活動を支援しています。そこで、お尋ねします。

現在のコロナ禍であるからこそ、本県においても、こうした傾聴ボランティア活動を積極的に普及していくべきであると考えますが、知事職務代理者のご所見をお伺いします。

【服部知事職務代理者の答弁】

(1) 傾聴ボランティア活動の意義について

高齢者に寄り添い、共感を持って話を聴く傾聴ボランティア活動は、新型コロナウイルスの影響で、通所介護施設や地域の通いの場の休止、高齢者施設の面会制限等により制約を受けている状況で、電話などを用いて行われていると聞いています。

傾聴ボランティア活動は、孤独感の解消や心身の健康維持につながる、重要で意義のある活動だと考えます。

(2) 本県における傾聴ボランティアの活動状況について

老人クラブや一人暮らし高齢者の見守りを行うグループ等、様々な団体がそれぞれの活動の中で傾聴活動を行っておられ、現在、県が把握している範囲では、市町村の社会福祉協議会やボランティアセンター等で活動を行っている団体は、24市町36団体となっています。

現在、コロナ禍で活動が難しい状況ではあるが、これらの団体では、それぞれの地域で工夫して傾聴活動や会員のスキルアップに取り組んでいます。

(3) 傾聴ボランティア活動の普及について

県では、生活支援の担い手の養成や高齢者のニーズとサービス提供者をつなぐ役割を担う、市町村の生活支援コーディネーターを対象に、スキルアップを図る研修会を実施しています。

今後、この研修において、傾聴ボランティア活動の取り組みを紹介するとともに、傾聴活動の意義やボランティアの育成の必要性について周知することにより、高齢者の日常生活支援に傾聴活動を取り入れていくことを促してまいります。